

脱原発
署名

みんなの力を結集させよう!

署名にご協力を!!

もう被爆者をださせない!!



原発事故が収束しないまま、事態は深刻化し、福島をはじめ、近隣県の子どもたちは今も不安と不自由な生活を強いられています。子どもたちを守るためにも、組合に結集するみなさまの力強いご支援をよろしくお願いいたします。



いしかりちほん

発行
2011年9月8日

臨時号

〒060-0806

札幌市北区北6条

西7丁目

自治労北海道本部内

石狩地方本部

村上 真仁

TEL:011-747-1880

道本部学校

アクティブコース開講



参加者に修了証書が授与された
(閉校式にて)

9月2日～4日にかけて、自治労会館にて様々なテーマを取り上げて集中して学ぶ「アクティブコース」が開講され、20名が参加した。冒頭の山上委員長（学校長）の挨拶の後、それぞれ自己紹介を行い、公開講座を含めて7つの講座を受講した後、最終日に全員が終了証書を手し、今後の活動に向けて決意を新たにしました。



慣れない手書き教宣紙作りに悪戦苦闘
(第5講座 機関紙づくりにて)

第4講座

知事室に牛?!



第4講座では元江戸川区職労書記長の南雲講師が登場、組合活動は「おもしろくてやりがいがないければ続かない」「自治研の特性を活かし、住民と協働することが重要」と話し、自治研に関するグループワークでは、「現場の苦労を知ってもらうためには、知事室でも牛を飼う」という大胆な発想も飛び出した。最後に南雲講師は、自身の書記長時代に取り組んだ事例などを紹介し、参加者を激励した。

逢坂衆議院議員公開講座



災害時でも自治体は力を！と語る逢坂氏

4日に開催となった公開講座では、逢坂衆議院議員が講演を行い、今回の震災で国と地方の役割が混同し、責任所在が不明確だったことを指摘、避難所の仮設住宅の状況を例に挙げ、大災害時でも自治体の役割が大きい点について解説した。

また、本当の意味で日本がどうあるべきかについて、政治としてしっかりと議論していく役割があると強調した。

▽書記局から△▲

「喉もと過ぎればなんとやら」といいますが、原発のニュースが減った気がします。しかし、多くの子どもが、今もがまんを強いられています。私たちは小さなことしか出来ませんが、一人ひとりがしっかり意識を持つことが本当に大事だと思います。(む)